

(別添様式)

ダイオキシン類簡易測定法(生物検定法) 応募様式

1. 応募機関

応募機関	名称				代表者氏名		
	住所	〒					
	担当者	所属				氏名	
		連絡先	TEL			FAX	
			E-mail				
	応募測定方法との関係	当該測定方法の開発者 / 機関 当該測定方法の開発者 / 機関から応募の依頼を受けた機関 (開発者 / 機関名:)					
	環境省ダイオキシン類環境測定調査受注資格			有(, 年度)	無		
	特定計量証明事業者認定			有(認定年月: 年 月)	無		
試料採取(排出ガス)			可	否			
共同応募機関	名称				代表者氏名		
	住所	〒					
	担当者	所属				氏名	
		連絡先	TEL			FAX	
			E-mail				
	応募測定方法との関係	当該測定方法の排出ガス試料採取方法の開発者 / 機関 当該測定方法の排出ガス試料採取方法の開発者 / 機関から応募の依頼を受けた 機関(開発者 / 機関名:) 当該測定方法の排出ガス試料採取実施可能者 / 機関 当該測定方法の前処理方法の開発者 / 機関 当該測定方法の前処理方法の開発者 / 機関から応募の依頼を受けた機関(開発者 / 機関名:) 当該測定方法の前処理実施可能者 / 機関					
	環境省ダイオキシン類環境測定調査受注資格			有(, 年度)	無		
	特定計量証明事業者認定			有(認定年月: 年 月)	無		
試料採取(排出ガス)			可	否			
協力体制(分担)	応募機関	試料採取	抽出	クリーンアップ	定量	データ取りまとめ	
		その他()					
	共同応募機関	試料採取	抽出	クリーンアップ	定量	データ取りまとめ	
		その他()					

<記入上の注意事項>

- ・ がある欄については、該当するものを塗りつぶし、必要に応じ、内容を()に記入してください。
応募機関、共同応募機関の会社概要等を添付してください。

2. 測定方法

名称						
分類	ダイオキシン類がアリール炭化水素受容体に結合することを利用した方法 ダイオキシン類を抗原とする抗原抗体反応を利用した方法 その他					
概要	測定方法の内容・原理				注1	
	フロー図	排出ガス			注2	
		ばいじん				
		燃え殻				
	標準物質名				注3	
	検量線の作成方法					
	検出下限値及び定量下限値の設定方法					
	定量測定範囲	アッセイ			/well (試料量: μ l/well)	注4
		排出ガス			/m ³ N (試料量: m ³ N)	
		ばいじん			/g (試料量: g)	
		燃え殻			/g (試料量: g)	
	毒性等量への補正方法	標準試料				注5
		排出ガス				
		ばいじん				
燃え殻						
主な用途と測定実績	媒体	用途	実績(検体数) 年 月 ~ 年 月			注6
			応募機関による測定			
	試料採取 ~ 定量	抽出 ~ 定量	クリーンアップ ~ 定量			
	排出ガス				() () () ()	
	ばいじん				() () () ()	
	燃え殻				() () () ()	
	()内は市販/受託検体数				() () () ()	
必要な設備 試薬等				注7		

	各工程の 留意事項	試料採取				注 8	
		抽出					
		クリーンアップ					
		定量					
	環境汚染防 止、安全上 の配慮事項					注 9	
	精度管理上 の留意事項					注 10	
特徴	リガント'に対 する反応性					注 11	
	平均的な 測定 所要時間 (1検体又は 1測定ロット あたり)	媒体	排出ガス	ばいじん	燃え殻	注 12	
		全体	時間	時間	時間		
		内 訳	抽出				
			クリーンアップ				
			定量				
			データ処理				
			その他				
	備考						
	同時測定 可能検体数 ()内は1セット の装置におけ る検体数	媒体	排出ガス	ばいじん	燃え殻	注 13	
		抽出	()	()	()		
		クリーンアップ	()	()	()		
		定量	()	()	()		
		備考					
平均的な 測定費用 (1検体 あたり)	媒体	排出ガス	ばいじん	燃え殻	注 14		
	全体	円	円	円			
	内 訳	抽出					
		クリーンアップ					
		定量					
	備考						
キット市販価格	円/キット(測定可能検体数: 検体/キット)						
その他簡易性 に係る事項					注 15		
高分解能 GC/MS 法 との比較データ	比較データ	標準試料	単位	測定データ		出典	注 16
				高分解能 GC/MS 法	応募測定方法		
		ng-TEQ/ml					
	1						
	2						

		排出ガス	単位	ng-TEQ/m ³ N		
			1			
			2			
		ばいじん	単位	ng-TEQ/g		
			1			
			2			
		燃え殻	単位	ng-TEQ/g		
			1			
			2			
	グラフ・ 相関係数 回帰式	標準試料	(相関係数: , 回帰式:)			
		排出ガス	(相関係数: , 回帰式:)			
		ばいじん	(相関係数: , 回帰式:)			
		燃え殻	(相関係数: , 回帰式:)			
実用化に関する状況	市販 / 受託、 近く市販 / 受託予定(予定日: 年 月) 開発中					
特許・実施権等	特	出願・登録 状況	出願中(対象国:)出願日	No.	注 17	
			登録済(対象国:)登録日	No.		
	許	特許権者/出願人				
		発明の名称				
		発明の概要				
	実 施 権	実施許諾者				
		実施権者				
		実施権の範囲	製造権 販売権 卸販売件 使用权 貸渡し権 輸入権 再実施許諾権 その他()			
		態様	独占的实施権 非独占的实施権			
		品質保証約定	あり() なし			
		実施の時期・ 数量等	実施権の有効期間	:()		
			数量制限	あり() なし		
			地域制限	あり() なし		
		ライセンス対価				
		実施権者の改良 発明の扱い				
備考						

	再実施許諾者		
	再実施権者		
	再実施権の範囲	製造権 販売権 卸販売件 使用権 貸渡し権 輸入権 その他()	
	態様	独占的实施権 非独占的实施権	
	品質保証約定	あり() なし	
	実施の時期・数量等	再実施権の有効期間 : ()	
		数量制限: あり() なし	
		地域制限: あり() なし	
	ライセンス対価		
	再実施権者の改良発明の扱い		
備考			
非差別的かつ合理的条件における実施許諾の可否		可	否
中立機関における実証試験の可否	可 条件付きで可(条件:) 否(理由:)		
現段階で判明している課題			
備考、特記事項			

<記入上の注意事項>

- ・ がある欄については、該当するものを塗りつぶし、必要に応じ、内容を()に記入してください。
- ・ 欄内に書ききれない場合は、適宜欄を増やすか、又は別紙に記入の上添付してください。

注1: レポータージーンアッセイ法の場合は、レポーター遺伝子導入細胞及びレポーター遺伝子の種類、イムノアッセイ法の場合は、抗原物質、抗体の種類、二次抗体の標識物質も併せて記入してください。

注2: 試料採取から記述してください。なお、各媒体共通事項はまとめて記入しても構いません。

注3: 検量線作成に用いる物質を記入してください。

注4: 「アッセイ」の欄には、wellあたりの定量範囲及びwellにチャージする試料溶液量を記入してください。また、各媒体の欄には、実試料あたりの定量範囲及びその際に供する実試料量を記入してください。なお、適宜単位を付けてください。

注5: 実測した数値を毒性等量に補正する式又は係数を記入してください。

また、補正式/係数の設定にあたって用いたデータを添付してください。

なお、「標準試料」は、PCDD/DF又はPCDD/DF+Co-PCBの試薬を混合したものを指します。

注6: 排出ガス、ばいじん、燃え殻以外の媒体、用途についても主なものについて記入してください。

測定実績の検体数は、公募試験に参加した際の測定や研究開発の測定など市販/受注以外の測定分も含めて記入してください。なお、()内には、そのうち、市販/受注した測定分を記入してください。また、測定実績は、測定者が応募機関(共同応募機関を含む)の場合と他の機関の場合に分けて記入してください。

注7: 試料採取から記入してください。

なお、媒体により必要な設備、試薬等が異なる場合はその旨明記してください。

- 注8:高分解能 GC/MS 法における操作と異なるなど各工程において、留意すべき事項があれば記入してください。
- 注9:当該測定方法による測定を行う機関において環境汚染防止、安全を図る上で、配慮すべき事項があれば記入してください。
- 注10:当該測定方法による測定を行う機関において精度管理を行う上で、留意すべき事項があれば記入してください。
- 注11:交差反応性に関するデータを記入又は添付してください。なお、出典も併せて記入してください。
- 注12:応募機関(共同応募機関を含む)における、通常の測定条件での1検体あたりの平均的な測定所要時間を記入してください。なお、「備考」の欄には所要時間計算にあたっての条件(1検体あたりの測定回数、各工程の実施機関名等)等を記入してください。なお、同時に複数検体を処理する場合は、1測定ロット当たりの平均的な所要時間を記入してください。
- 注13:応募機関(共同応募機関を含む)における、通常の測定条件での各工程の同時測定可能検体数(応募機関における測定規模)を記入してください。また、()内には、1 セットの装置あたりの検体数を記入してください。なお、「備考」の欄には同時測定可能検体数記入にあたっての条件(1検体あたりの測定回数、各工程の実施機関名等)等を記入してください。
- 注14:応募機関(共同応募機関を含む)における、通常の測定条件での1検体あたりの平均的な測定費用を記入してください。キット販売の場合も、想定される抽出、クリーンアップを含めた費用を記入してください。なお、この費用は受託する場合の価格ではなく、測定に要する経費を指します。また、人件費等の固定費は除外して下さい。
- 「備考」の欄には費用計算にあたっての条件(1検体あたりの測定回数、各工程の実施機関名等)等を記入してください。なお、キットとして販売している場合は、キットの市販価格等も併せて記入してください。
- 注15:操作の簡便性等その他簡易性に係る事項がある場合、該当事項を記入してください。
- 注16:比較データは、試料当たりの値を単位と併せて記入してください。
- 注17:応募機関が特許権者の場合であって、実施許諾を行っている場合は、「実施権」の欄も記入してください。また、実施権者の場合であって、再実施許諾を行っている場合は、「再実施権」の欄も記入してください。
- 「非差別的かつ合理的条件における実施許諾の可否」の欄は、特許権者に確認の上、記入してください。可能な範囲で特許、実施権等の関係資料を添付してください。
- 関連論文資料等技術資料を添付してください。